

● 草の根パートナー型

平成25年度第1回 採択内定案件

I. 提案事業の概要	
1. 対象国名	ラオス人民民主共和国
2. 事業名	ラオスにおける障がい者の小規模起業支援事業
3. 事業の背景と必要性	<p>世界保健機関（WHO）によれば、ラオスの障害者数は総人口約630万人の10%にあたる約63万人である。教育、就業、社会インフラ、法整備等にかかるラオスの障害者福祉政策は遅れており、障害者が社会活動に参加できる機会は少ない。特に障害者の就労については、障害者の就職斡旋、職業訓練のための機関は存在するものの、安定的な就労には結びついておらず、厳しい状況である。</p> <p>ラオスの障害者支援において中心的な役割を担ってきたのがラオス障害者協会（LDPA）である。首都ビエンチャン市に本部を、地方16県中10県及びビエンチャン市に支部を置き、会員数は21,380人である。同会は、いくつかの県で障害者支援事業を実施しているが、本提案事業の3つの対象県では会員への支援は行われていない。ビエンチャン市は会員数が6,014人と最多であるが、同市の会員への支援も限定的である。</p>
4. プロジェクト目標	対象地域における障害者の収入が増える
5. 対象地域	ビエンチャン市、ビエンチャン県、サヤブリー県
6. 受益者層	対象地域に在住する障害者
7. 期待されるアウトプット及び活動	<p><アウトプット></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象障害者が、キノコ栽培、ナマズ養殖、裁縫の仕方・方法や事業の運営・資金管理方法等、小規模事業を始めるために必要な知識を得る小規模起業による産物の販売が順調に進む 2. 対象障害者が小規模事業を開始し、製品・生産物が販売される 3. LDPA県支部が、自分たちでキノコ栽培、ナマズ養殖、裁縫研修を実施できる <p><活動></p> <ol style="list-style-type: none"> 1-1 LDPA県支部職員とともに研修の対象地、対象者を選定する 1-2 キノコ栽培研修、鯨研修、裁縫研修および小規模事業の運営や資金管理、障害者の権利、モチベーション維持にかかる研修を実施する 2-1-1 キノコ栽培研修生に、起業のための資材（滅菌用ドラム缶、栽培・育成小屋、キノコ菌、肥料）を供与する 2-1-2 ナマズ養殖研修生に、起業のための資材（コンクリート池、ナマズ稚魚、飼料）を供与する 2-2 各研修生の生産状況のモニタリングを行う 2-3-1 周辺地域住民への説明会を開き、事業内容や研修生を紹介する 2-3-2 販売案内の看板を作成し、各研修生の生産拠点（自宅）に設置する 2-3-3 周辺地域の市場を調査し、研修生に適正な販売価格等につき助言する 3-1 研修対象者の選定、予算の管理、研修内容・日程の作成等をAARとLDPA県支部職員が共同で行う 3-2 LDPA県支部職員が主導して、研修対象者の選定、予算の管理、研修内容・日程の作成等を行う 3-3-1 LDPA県支部が四半期に一度、本事業に関する進捗状況や問題等をLDPA本部に報告し、情報共有を行う 3-3-2 3-3-1の内、年1回はLDPA県支部職員がLDPA本部に集まり、情報共有会を開催する
8. 実施期間	2014年7月～2016年12月（2年5ヵ月）
9. 事業費概算額	53,992千円
10. 事業の実施体制	現地では、プロジェクトマネージャーが事業全体を統括し、プロジェクトコーディネーター、ラオス人スタッフ4名とともにLDPAと事業を実施する。ビエンチャン市では同協会本部と、対象2県では各LDPA県支部と共同で実施する。東京本部では事務局長のもと、プログラム・コーディネーターが日本国内での調整業務を担う。
II. 応募団体の概要	
1. 団体名	特定非営利活動法人 難民を助ける会（AAR Japan）
2. 活動内容	AAR Japanは1979年に設立された、政治・思想・宗教に偏らない市民団体である。緊急支援、障害者支援、地雷・不発弾対策、感染症対策、啓発を活動の5本柱として活動している。これまでに55以上の国・地域で活動を実施した。